

船井情報科学振興財団留学報告書

Department of Economics, Northwestern University

村上愛

前回のレポートではアメリカの経済学のジョブマーケットについて説明しました。しかし、実際に体験してみると時期や内容に相違点が見つかったので今回のレポートで修正内容をお知らせしたいと思います。ただし、以下の内容に関しては私の所属している Northwestern University のスケジュールなので、学内のプログラムの内容と時期については大学ごとに異なる可能性があります。

9月には、Department が必須とする最初の job market paper の発表練習がありました。この練習は、Placement director の前で行いました。プレゼンテーション発表は最初の10分が最も大事といわれています。最初の10分を聞いただけで、研究のモチベーション、内容、結果、新規性の全てが理解できるようになっている必要があると言われていました。私は最初の発表では散々な内容でしたが、その後、練習回数を重ねて、多くの教授にアドバイスを頂くことで改善をしていきました。

10月は複数の作業を並行して行う必要があり、時間が本当に足りないと感じました。まず、論文の改訂作業も続けていました。特に、イントロダクションの部分については読んでくださった教授のアドバイスに基づいて何度も書き換えていました。次に、Placement director が学生と学内の教授をマッチしていただき、インタビューの練習を行いました。4人の教授と個別に4回、各45分 Zoom で模擬インタビューを行いました。さらに、プレゼンテーション発表用のスライドも日々改訂していました。10月下旬には、仕事の応募に必要な書類を準備していました。多くの大学の経済学部の Assistant professor のポストは11月中旬に締め切りますが、早いところでは10月末に募集を締めきる大学もありました。10月中に20校ほど先に応募しました。

以前のレポートにも記載しましたが、平均的に経済学の Ph.D. の学生は地理的な好みがない限り、200程度のポジションに応募します。Post-doc のポジションは数が少ないのでその多くは Assistant professor のポジションへの応募です。

インタビューの時期に関しては前回のレポートに記載したあと、近年の傾向が変化しているという情報が入りました。大幅な修正を下記にいたします。

以前は1月の American Economic Association (AEA) のAnnual Meetingの時期にあわせてインタビューを行うと書いてしまいました。しかし、パンデミック以降はインタビューをZoomないしオンラインで行う習慣に変化し、インタビューの時期はAEAミーティングをむしろ避けて行うことになったそうです。そのため、早いインタビューは12月の第一週から開始だそうです。多くのインタビューは12月第二週以降に入ります。

また、ほとんどの方には関係のない情報ですが、現在アメリカの経済学のPh.D.にいる方、あるいはこれから進もうと考えている方向けのtips を以下にお伝えしたいと思います。

200以上のポジションに応募する際に、事務作業として問題になるのがカバーレターの作成です。1ポジションずつ組織名などの宛名を変更しながら200枚のレターを用意する必要があります。これはアメリカでジョブマーケットに出る場合、基本的に避けて通れない作業です。数日かけて1枚ずつ手作業で作成している方もいると聞いたのですが、私の場合は以下の3つの手順で済ませることが出来ました。①応募先の大学、学部、ポジション名をエクセルの表にまとめます。②マイクロソフトワードファイルでレターのテンプレートを作成します。③ワードの「差し込み印刷」の機能を使い、①で作成したエクセルのデータをテンプレートに挿入、です。

この方法以外にも、レターの作成をいかに簡単化して行うか、ということは様々な人がいろいろな方法を提案しているので調べてみるとよいかと思います。

ジョブマーケットの年はとにかくストレスマネジメントが大事とされています。私は今年の夏に数十ドルのカプセル用のコーヒーマーカーを自宅に用意しました。カプセルなのでコーヒーだけでなくお茶も 3分ほどではいります。研究をしながら、あるいは応募の書類を用意しながら、簡単においしいコーヒーやお茶が楽しめるようになったことは非常にストレスの軽減に役立ったと感じています。ジョブマーケットに出る用意をしていると、リフレッシュするための時間をとることも難しいときがありますが、作業しながらホッとできる時間があると生産性もあがりました。これからジョブマーケットに出る予定の方がもしこのレポートを読んでいらっしゃるのであれば、自分に合った息抜きの仕方を探してみることをお勧めします。